

洛和会京都厚生学校 学校評価 令和3年度自己評価結果

本校が実施した令和3年度の学校運営について点検・評価した自己評価結果を以下に取りまとめる。

なお、コロナ禍の中、オンライン授業の体制を整備し、感染予防対策を徹底させ、クラスターを出すことなく安心安全な学校運営を展開することを最重要課題とした。

1 基礎データ

(1) 生徒数

看護学科1年 (定員80名)	看護学科2年 (定員80名)	看護学科3年 (定員80名)	助産学科1年 (定員20名)	合計 (定員260名)
94名	87名	82名	20名	283名

(2) 国家試験合格者数

区分	受験者数	合格者数	合格率
看護学科	74名	73名	98.6%
助産学科	20名	20名	100%

(3) 就職率

看護学科	100%
助産学科	100%

2 評価項目

(1) 教育理念・教育目的について

本校の教育理念は、「洛和会ヘルスケアシステムの理念(*1)を基盤とし、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持った助産師・看護師の育成を目指す。」及び「豊かな人間性と看護に必要な態度、知識、技術を持った地域医療に貢献できる医療人の育成を目指す。」の2点である。

また、教育目的には

「人間を総合的に理解し、人間愛と人権意識に根差した、対象から信頼される専門的パートナーシップを備えた医療人を育成する。

専門職として必要な知識及び技術を身につけ多様な対象の個別性に対応できるよう、知識を自ら探求し、解決していく医療人を育成する。」

と定めている。

(*1 洛和会ヘルスケアシステムの理念とは「一 顧客第一に質の高い医療、介護、保育を提供します」「一 すべてのサービスに誇りと責任を持ちます」「一 経営基盤を確立し、個人と組織の向上を目指します」の3点である。)

令和3年度においては、本校教育理念、教育目的を浸透させるために「学生便覧」にこ

れを掲げ、入学式等機会あるごとに生徒への浸透を図ってきた。また、教職員においても事務室や教室に掲示するなど、常に自覚する環境づくりに努めており、教育理念、教育目的の浸透がみられているところである。

(2) 学校運営について

令和3年度においては、学校長、副校長各1名及び看護学科23名、助産学科3名の教員並びに教務事務担当職員3名、管理部担当職員5名の体制で学校運営を進めた。

こうした体制の下、学校運営をさらに円滑に推進するために「看護学科会議」「助産学科会議」をはじめ「専門領域別担当者会議」「隣地実習指導者会議」「実習状況検討会議」を設け、また、「業務推進・調整会議／退学防止プロジェクト」、「学校だより企画編集会議」「図書委員会」「インスタグラム委員会」「オープンキャンパス委員会」など総合的な連絡調整、企画運営を進めている。この他、「学校訪問」「出前授業」「ヘルスケア学会」などの諸活動についても学科等の枠を超えた総合的な展開を目指してきたところである。

(3) 教育課程・教育活動について

令和3年度においては、次年度の改正カリキュラムに対応できるよう諸準備を進めた。学生の臨床判断能力・看護実践能力の向上を目指して高機能シミュレーターSCENARIOを用いた演習を行うなど、対象を体感しつつ状況判断や予測をしながらかわることを早い段階で意識づけられるよう訓練している。引き続き各種ICT機器を活用した授業実践が見込まれるところであり、教職員の研修にも十分な時間を確保することが必要である。

(4) 学習の到達度について

令和3年度においては、本校における看護師国家試験の合格率は98.6%、助産師国家試験の合格率は100%であった。いずれも新卒学生の全国平均合格率(96.5%、99.7%)を上回る結果となった。これらは、定期的な模擬試験の実施、国家試験対策教員の増加、ICTによる特別講義の実施、夜間の学習環境の開放などの成果と思われる。

なお、看護学科の生徒の退学率は1年生が最も高く4.3%。次いで3年生の3.7%、2年生の1.1%と続く。助産学科における退学率は0%であった。

引き続き退学防止対策及びチューター制による学校サポート事業を継続していく。

(5) 奨学金など生徒への支援状況について

本校の奨学金制度は、内容・規模ともに極めて充実した内容となっている。種類も豊富で、貸与型の「洛和会奨学金」(返還免除の規定あり)や「洛和会京都厚生学校入学時緊急貸与特別奨学金」をはじめ給付型の「矢野奨学金」「特待生奨学金」、さらには、日本学生支援機構奨学金、教育訓練給付制度、国の教育ローン、オリコ学費サポートプランなど

も利用されている。令和3年度においては、洛和会関連の奨学金は263人中208人が受給しており全体のおよそ8割となっている。

(6) 教育資材・教育環境の整備について

授業及び演習において必要な環境や備品が整備されているかについて、生徒の意識を問うたところ、看護学部においては指標5の「非常に当てはまる」が11.7%、4が25.9%、3が41.0%、2が16.9%、1の「まったく当てはまらない」が0.2%の結果となった。

また、助産学科については、5の「非常に当てはまる」は0%、4は13.3%、3は6.7%、2は46.7%、1の「まったく当てはまらない」は33.3%となった。

なお、授業や遠隔教育においてタブレットを活用する事例が増えてきているが、これらを所持していない生徒も数名おり、こうした生徒への機器貸与を従来同様に継続していく必要がある。

(7) 入学志願者増の取組について

本校への入学を希望する生徒数の増加を図るための取組について、以下の点検を行う。

オープンキャンパスについては、看護学科で全8回実施し、259名の参加を得た。なお、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、うち2回はオンラインでの開催とした。

参加者については新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、志望者のみの参加とし、保護者等の同伴は遠慮いただいた。

助産学科については、全3回81名の参加を得た。

以上のほか、個別学校説明会を開催し、26名の参加を得た。高校への出頭授業は40か所362名を対象に行った。

こうした取組みが功を奏して、令和4年度の入学志願者は336名となり2.2倍の倍率となった。

(8) 特別活動について

令和3年度においては、全国的に新型コロナウイルスの感染状況が収束せず、本校においてもいくつかの行事が中止された。恒例のイタリアへの修学旅行や水脈祭の中止、オープンキャンパスの縮小などが相次いだ。令和4年度は、感染状況の推移を見ながら、可能な範囲で再開できることを期待する。

(9) 地域・社会への貢献、他機関との連携状況について

本校においては、地域医療の中核を担う総合病院として地域とのかかわりを重視してきた。病院機構と一体となって年1回開催する「水脈祭」には地域の方々にも参加していただけるよう開放する取組みも進めてきたところである。しかしながら、近年はコロナ禍

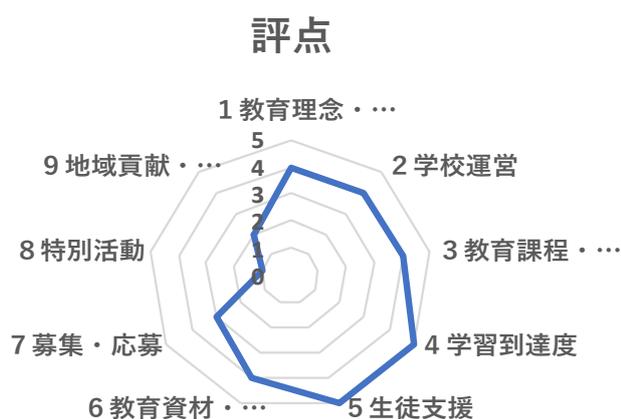
のため中止が余儀なくされている。

一方、消防・警察などの地域の諸機関との連携により、学生や教職員を対象とした防災教室や防犯教室を実施しているところであるが、こうした諸機関との連携を一層深め、相互に協調・協働して看護にかかわる専門学校ならではの取組みを引き続き発信していくことが必要である。

3 レーダーチャート

自己評価

項目	評点
1 教育理念・教育目的	4
2 学校運営	4
3 教育課程・教育活動	4
4 学習到達度	5
5 生徒支援	5
6 教育資材・環境	4
7 募集・応募	3
8 特別活動	1
9 地域貢献・機関連携	2



以上、「洛和会京都厚生学校 学校評価実施要綱」に基づき、令和4年6月24日に校内評価委員会を開催し、令和3年度の自己評価結果を取りまとめた。

各項目ごとに校内委員会において5段階の評定を行ったところ、上記の結果となり、平均値は3.5となった。

本評価結果についてはホームページ若しくは刊行物等により公表するとともに「学校関係者評価」を実施し、さらなる点検・改善を図るものである。

(参考)

校内評価委員会

令和4年6月24日

洛和会京都厚生学校 校長、副校長、助産学科長、看護学科副学科長、管理部長